サーキットの現場から
第2戦富士
中嶋一貴インタビュー
「タイヤはそんなに硬いですか？」

©RACING NEWS formula2014

サーキットの現場から　第2戦富士　中嶋一貴インタビュー「タイヤはそんなに硬いですか？」

SUPER FORMURA第2戦富士大会では、幾度となく中嶋一貴（トムス）から「タイヤが硬い」との声が漏れた。予選後の記者会見でも、決勝レース後の会見でも、更には、グランドスタンド側で行われたトークショーでも言っていたと人づてに聞いた。そんなにタイヤは硬いのだろうか？レース後の中嶋一貴選手に率直に訊いてみた。

◆一貴選手は、今現在、現行のタイヤに一番不満を持っているドライバーさんのように見受けられるのですが？

一貴：そうじゃないですよ。僕が皆の声を代弁しているだけなんです。

◆今シーズン中はタイヤの仕様変更はないことはご存じなのですよね?

一貴：それは知っていますよ。でも、来年に向けてなんとか変えてもらいたいので。　だって、去年からタイヤはもう少しソフトの方がいいと言っていたのに変わらなかったですから。もうちょっと言わないとダメかなと。

◆一貴選手が、他のドライバーさんよりもタイヤのことが気になる理由として、昨年の開発テストの時に、柔らかいコンパウンドのタイヤテストを行っていたので、その時の良かった感触が残っているからなのかな、と勝手に想像してみたのですが。

一貴：それはあんまり覚えてないんですよ。というよりも、正直、全然覚えていない。そうでは

なく、鈴鹿はまだそんなに違和感なかったんですよ。速度域が高いから路面とのグリップも高いし、ダウンフォースも付けて走るので、クルマで押さえつけて走ればそんなにタイヤの硬さは気にならなかったんです。けれど、富士に来てローダウンフォースのセットで走ると、まるで、去年のスイフトで走っているような感じになっちゃう。スイフトってダウンフォースが出るセクター2は結構グリップするんですけど、ダウンフォースがないセクター3なんかは、タイヤの表面で走っている感じになっちゃうんです。なんとなく今回も、その時に近いような感じですね。ローダウンフォースにセッティングを持ってくると、このダラーラのクルマでもスィフトの時と同じようなことになっちゃうんです。そこらへんがちょっと気になるのと、特に今回は路面も悪かったし、余計に硬く感じました。

◆富士のコースの中で、一番タイヤが硬く感じるのはセクター3ということですか？

一貴：全体です。スイフトに比べて、ダウンフォースのピークも少ないのでセクター2も硬く感じる。やっぱり、去年までのクルマと比べるとダウンフォースのピークも相当少ない。それなのに、タイヤが去年と一緒のものだと、グリップしないし、タイヤは硬く感じてしまう。レースに関してもタイヤの落ちもそんなにあるわけじゃないし、タイヤのグリップではなくダウンフォースで走っている感じがある。だから前に車がいると、タイヤに頼らざるを得ないのだけど、グリップが低いから後ろに付こうとしても付けなくて、富士が単調なレースになっちゃう理由がそこにあると思うので。というのと、もっとタイヤを柔らかくして速くなった方がインパクトがあるかなと。

◆最初のシェイクダウンの時から、タイヤはもっと柔らかいほうがいいと、おっしゃっていましたね。

一貴：基本的にはずっとそう言ってますから。でも、鈴鹿ではそこまで意外と感じなかったです。やっぱりダウンフォースをつけて走るからだと思うんですけど、やっぱり富士で走ると結構、硬く感じます。

◆それでも今回、急にタイヤの硬さを口にするようになったのはなぜなのでしょうか？

一貴：急には言ってないですよ。多分、たまたま今回は、目立つような場所で言っただけで。

◆トークショーでも言ってたらしいと耳にしたのですが。

一貴：たまたまそういう話の流れになったからというのもありますけど。まぁ、今のうちに言っておかないと、来年もタイヤが変わらなさそうなので、ちょっと言っておこうかなと思って。

◆では、今回、言い出した理由は鈴鹿から富士とコース特性が違いって、硬さの感じ方が大きかったからというのもあるんですね。

一貴：そうです、クルマのダウンフォースセッティングの違いで、余計にそれが顕著に見えた気がする。

◆路気温なども、開幕戦からだいぶ上がっていると思うのですが、それは関係ありますか？

一貴：うーん・・・そういうのよりも単純にタイヤにかかる負荷の大きさだと思います。

◆では、2か月後の第3戦の富士も・・・

一貴：基本、同じことになると思います。より気温も上がるんで、もっと硬くかんじちゃうんじゃないのかな、と思います。

2戦連続となる富士ラウンド。しかし、路気温は前戦よりもさらに上昇し、路面温度は50℃を超え、過酷な条件での戦いになる可能性もある。また、第2戦は2レース制だったが、今回は250kmの1レース制となり、1スティントあたりのタイヤの走行距離も大きくかわってくる。そこで、タイヤにどのような変化が起こるのか、そして、それに対し一貴選手はどのようなコメントを残し、どのような走りを見せるのだろうか、一貴選手以外のドライバーの声なども拾いつつ、注目してみるとする。

牧野陽子